

第 2-2 章 集計の概要

2015 年版

1. 集計の対象

(1) 罹患日の期間

2015年1月1日から2015年12月31日まで

(2) 届出票受領期間

2015年1月1日から2018年6月30日まで

(3) 遡り調査対象期間

2018年6月11日から2018年8月31日まで

(4) 集計日

2019年2月28日

(5) 疾患

[1] ICD-O3（2012年改正版）の性状コード2（上皮内がん）ないし3（悪性腫瘍）であるもの。

[2] 頭蓋内腫瘍の場合は、0（良性腫瘍）と1（良悪不詳）も対象。

(6) 精度指標

MI 比：0.38

DCN 割合：10.9%

DCO 割合：7.3%

MV 比：84.6%

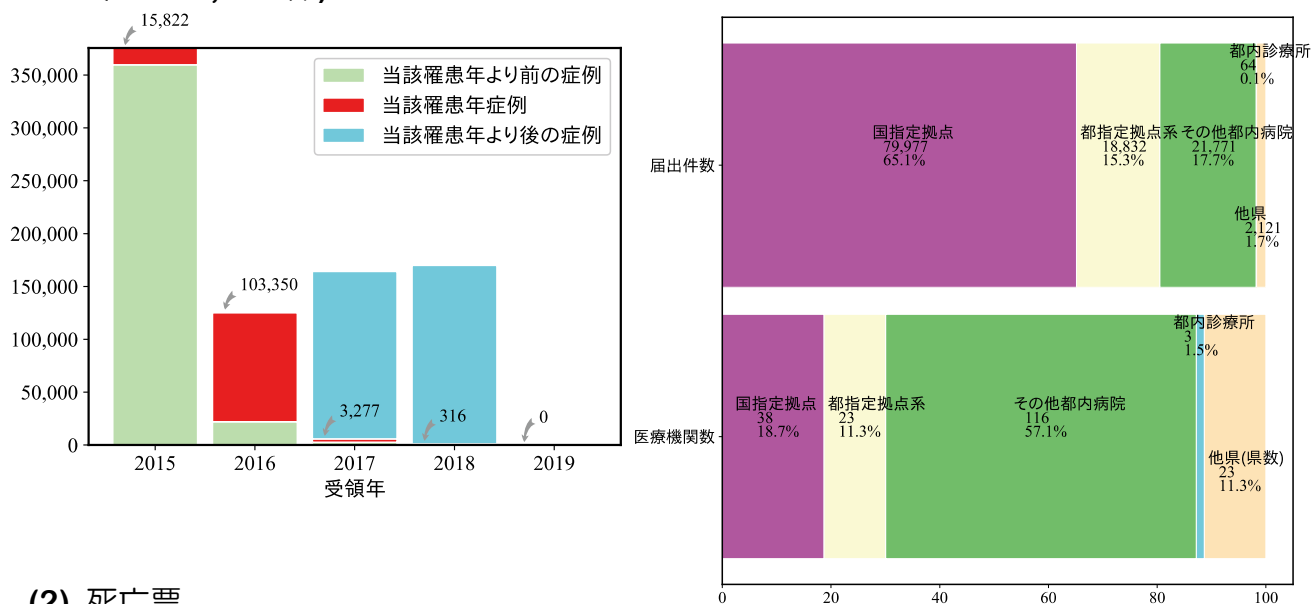
HV 比：81.5%

2. データ収集状況

(1) 届出票

2015年診断症例の届出票は、総計 122,765 件であった（重複、対象外を含む）。そのうち、97.1%を診断年翌年末迄に受領している。

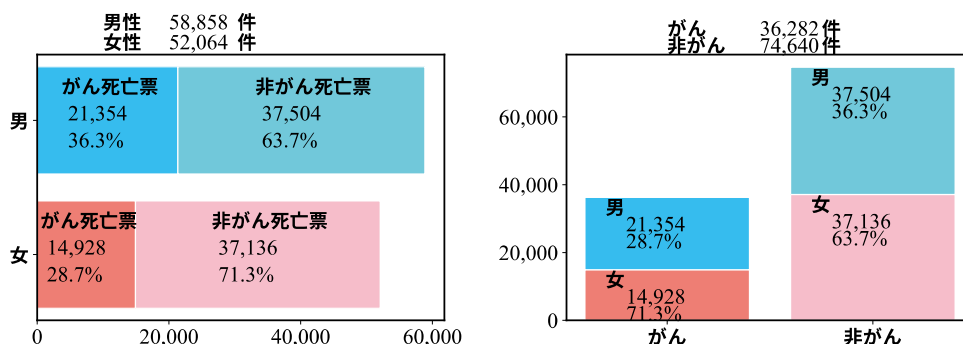
図 2.2.1 届出票（2015 年）受領状況 (N=122,765 件) 図 2.2.2 届出票（2015 年）医療機関別件数
都外医療機関数は道府県



(2) 死亡票

2015年死亡票（死亡時に都内に住民登録されていた者に係る死亡票）は、110,992 件（男性 58,858 件、女性 52,064 件）であった。そのうち、がんが記載された死亡票は 36,282 件（死亡票の 32.7%）（男性 21,354 件（男性死亡票の 36.3%）、女性 14,928 件（女性死亡票の 28.7%））であった。

図 2.2.3 男女別がん死亡票割合（2015 年）



(3) 遡り調査票

2015年遡り調査対象は、7,952 件（506 病院）であり、この全病院に対して遡り調査を実施した。遡り調査に対する回答は 6,513 件（回答率 81.9%）、386 病院（同

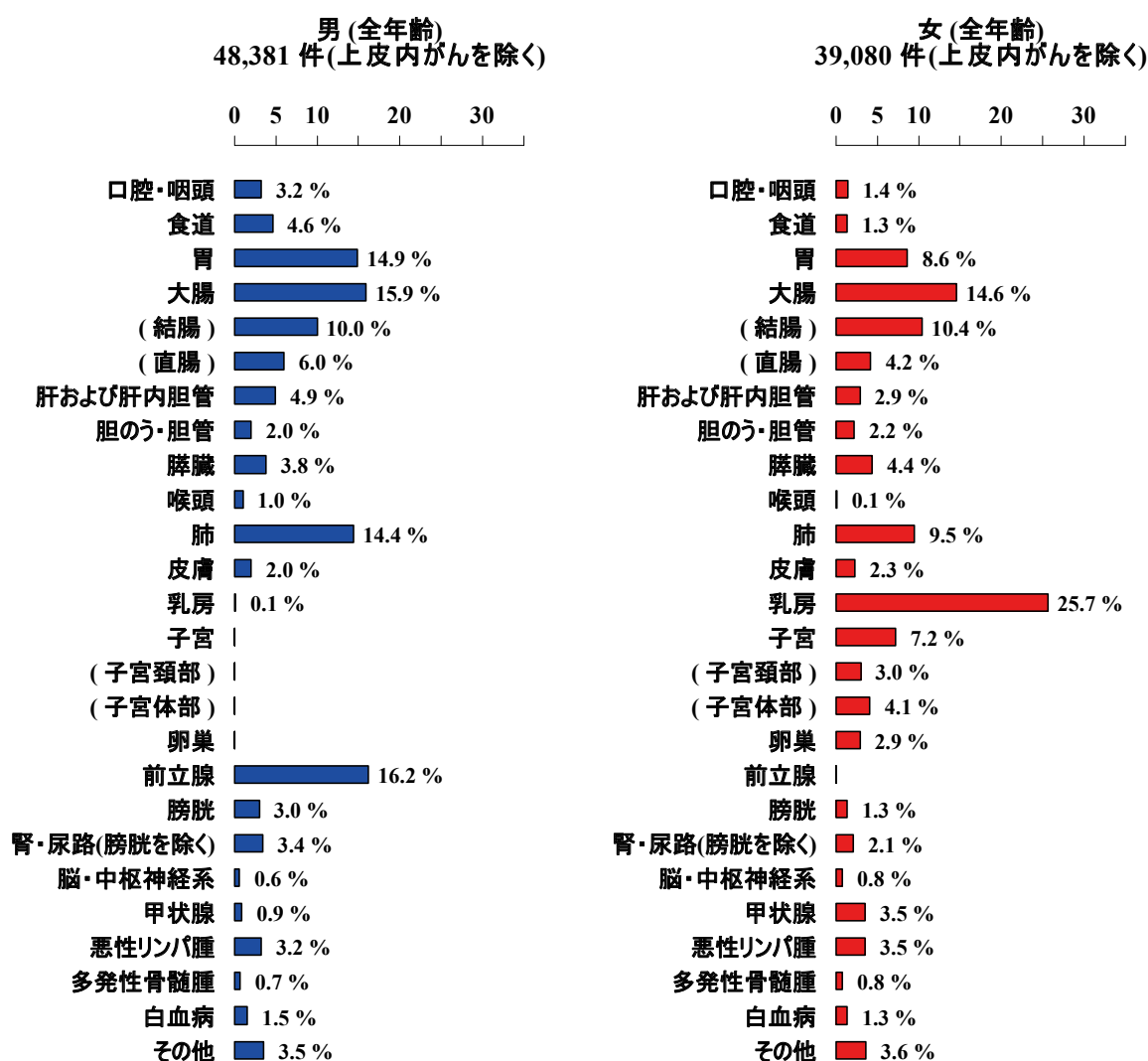
76.3%)であった。

3. がん罹患の概要

(1) 部位別・性別罹患数 (表 3.2.1A/B)

届出票と死亡票の情報を集約したがん罹患数は、上皮内がんを除いた場合、男性 48,381 件、女性 39,080 件で、男女計で 87,461 件であった。上皮内がんを含めた場合、男性 54,049 件、女性 46,597 件で男女計 100,646 件であった。上皮内がんを除いた、男性の最も多い罹患部位は、前立腺 (16.2%) と大腸 (結腸、直腸) (15.9%) であり、次いで胃 (14.9%)、肺 (14.4%)、肝および肝内胆管 (4.9%) と続く。女性の最も多い罹患部位は、乳房 (25.7%) であり、次いで、大腸 (結腸、直腸) (14.6%)、肺 (9.5%)、胃 (8.6%)、子宮 (子宮頸部、体部) (7.2%) と続く。

図 2.2.4 部位別・性別罹患件数・割合 (2015 年) (上皮内がんを除く) (年齢不詳を含む)



(2) 年齢別がん罹患（表 3.2.2A/B、3.2.3A/B）

2015 年罹患数の年齢別の内訳を見ると、65 歳以上が、男性 76.5%、女性 62.5% を占めている。一方、40～64 歳は、男性が 22.6%であるのに対して、女性は 32.6% となっている（図 2.2.5）。

罹患数は、男性は対女性比で 23.8%（9,295 件）多いが、生産年齢人口の対象となる 15～64 歳に限ると女性は対男性比で 28.8%（3,254 件）多い。これは、この時期に女性の乳房と子宮に発生するがんが多いためである（図 2.2.6）。

年齢階級別罹患率を見ると、男女とも年齢とともに罹患率は上昇するが、特に 50 歳を超えると上昇する。また、20 歳代後半から 50 歳代前半の間は、女性の方が男性より罹患率は高く、それ以外の年齢階級では、男性の方が高い。

部位別に見てみると、女性の場合、乳房は 30 歳代後半から、子宮頸部は上皮内がんを含めると、20 歳代から 30 歳代にかけて上昇している。年齢のピークは、乳房では、40 歳代から 60 歳代にあり、40 歳代と 60 歳代の二峰性である。子宮頸がんは上皮内がんを含む場合、30 歳代から 40 歳代前半がピークである。食道は、男性の場合のみ、70 歳代がピークとなっている（図 2.2.7）。

図 2.2.5 がん罹患年齢群別内訳（2015 年）（年齢不詳を除く）

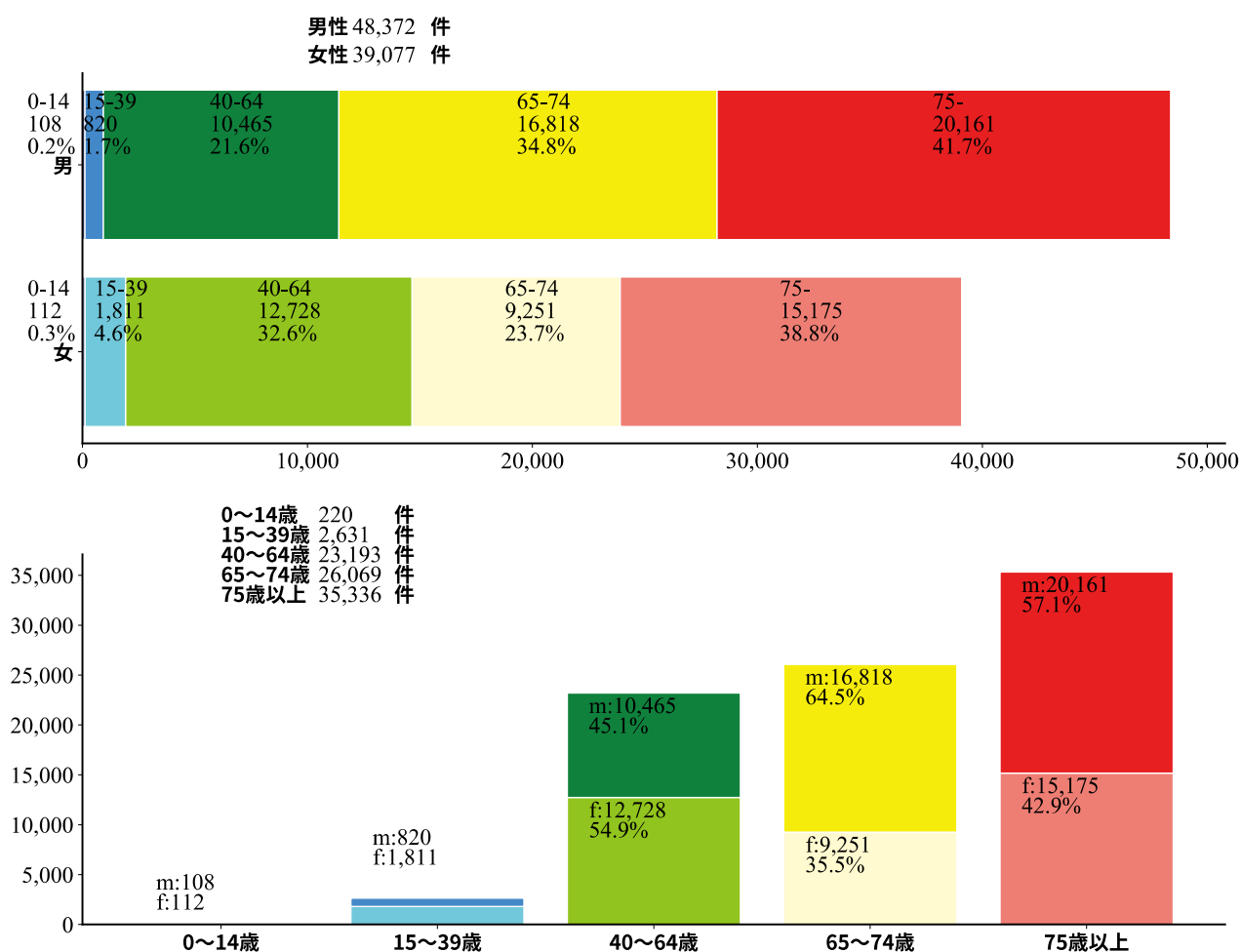


図 2.2.6 がん罹患年齢群別部位別内訳 (%) (2015 年) (年齢不詳を除く)

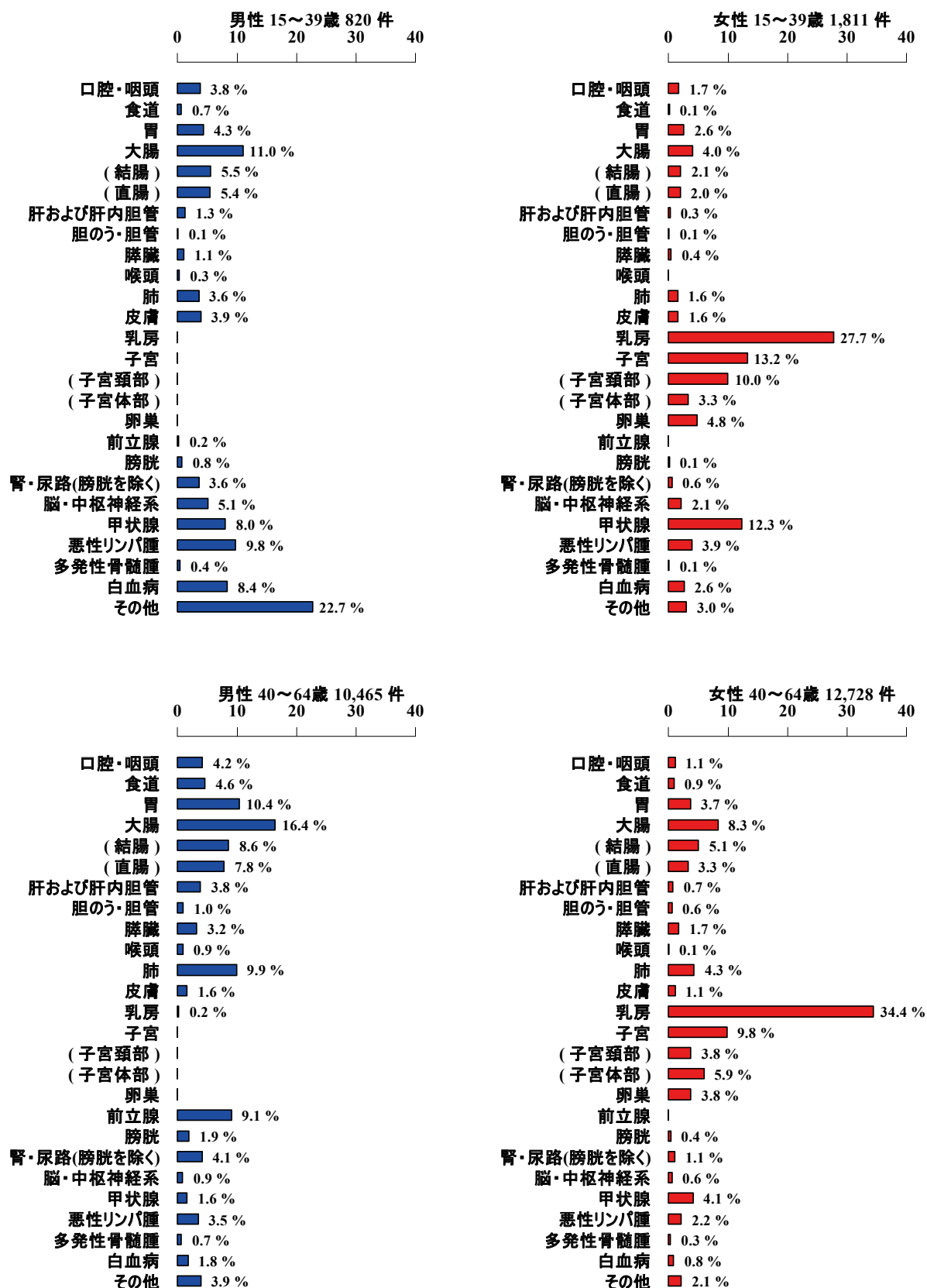


図 2.2.6 がん罹患年齢群別部位別内訳 (%) (2015 年) (続)

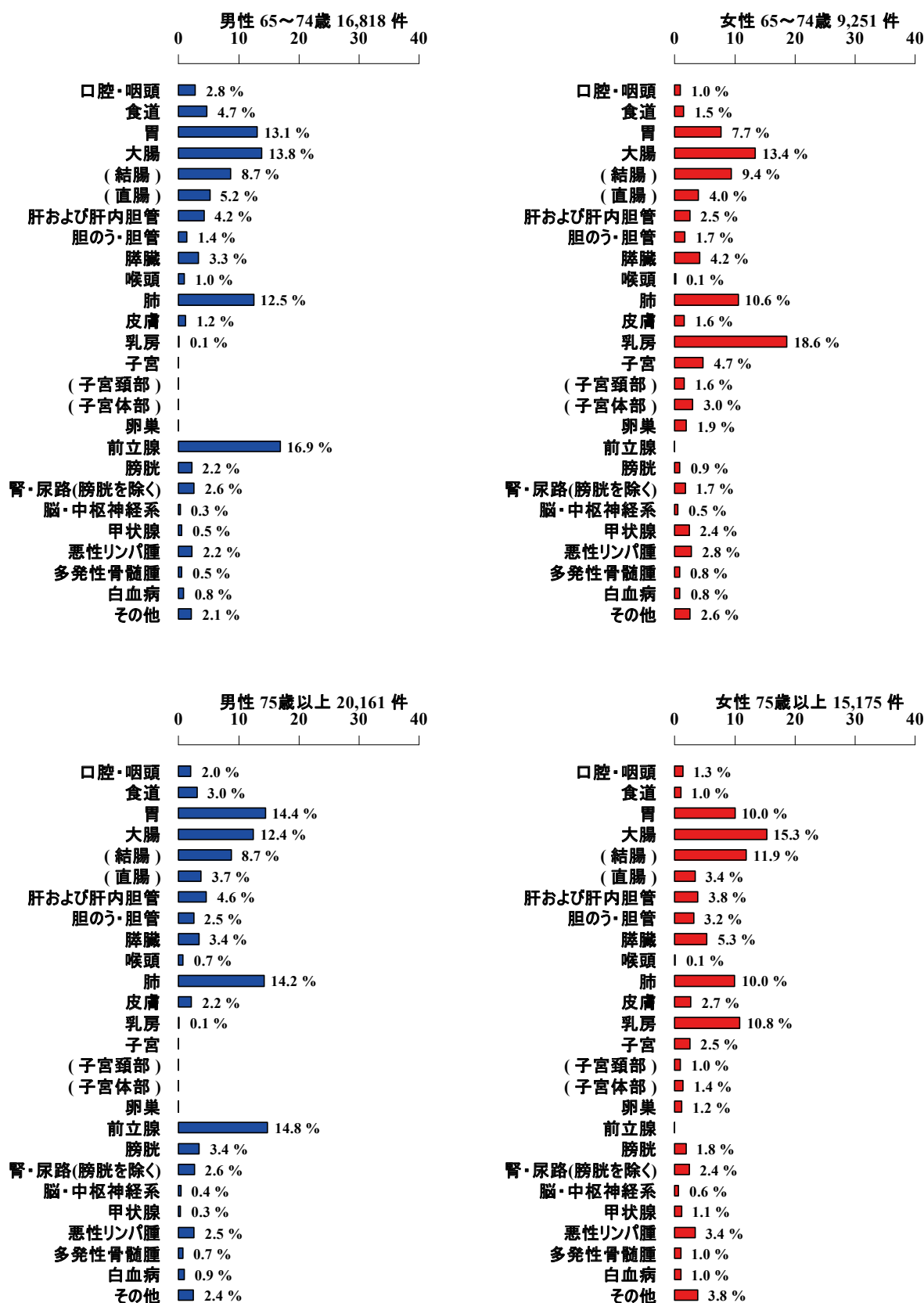


図 2.2.7 部位別年齢階級別罹患率（2015 年）：人口 10 万対

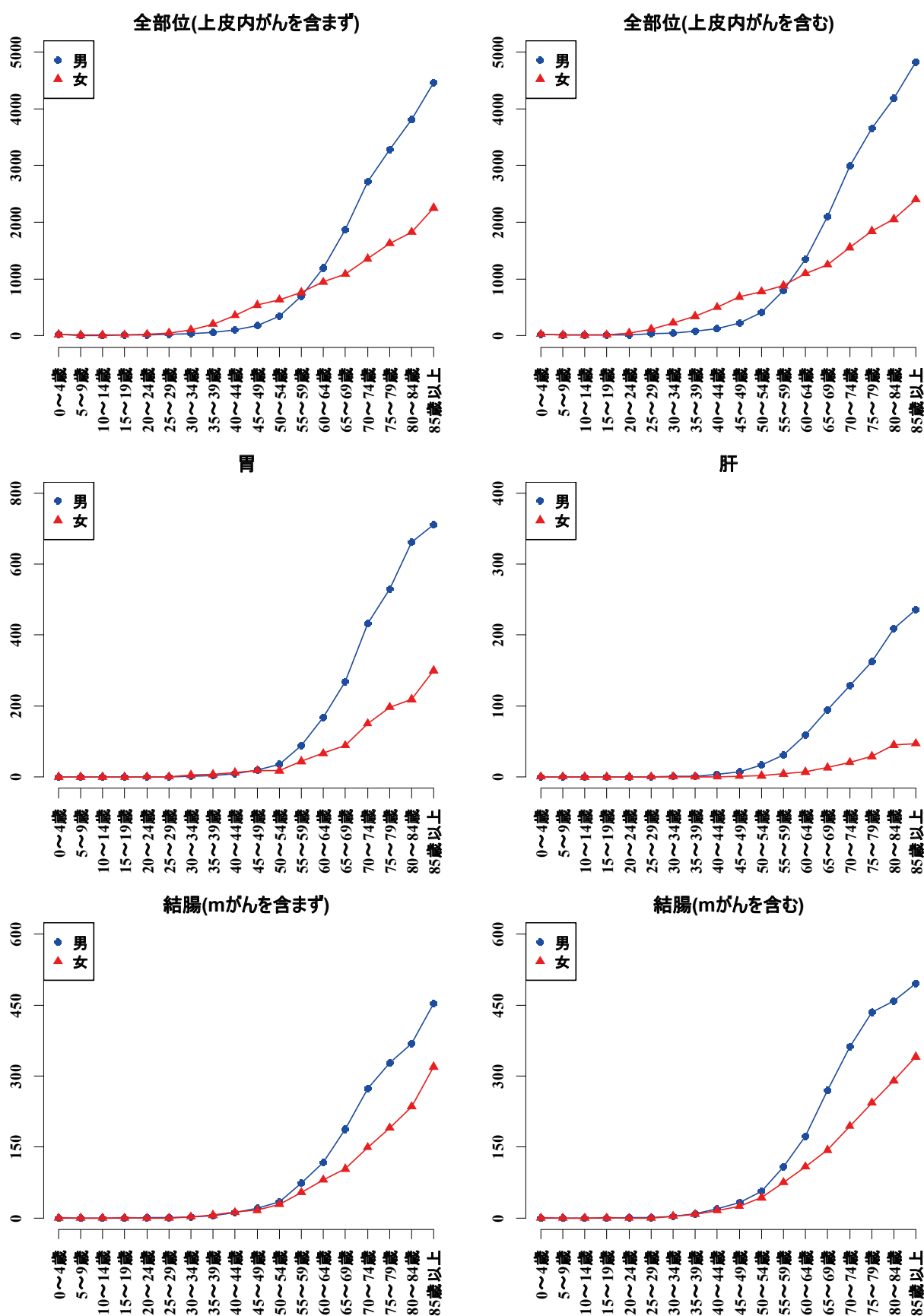


図 2.2.7 部位別年齢階級別罹患率（2015年）：人口10万対（続）

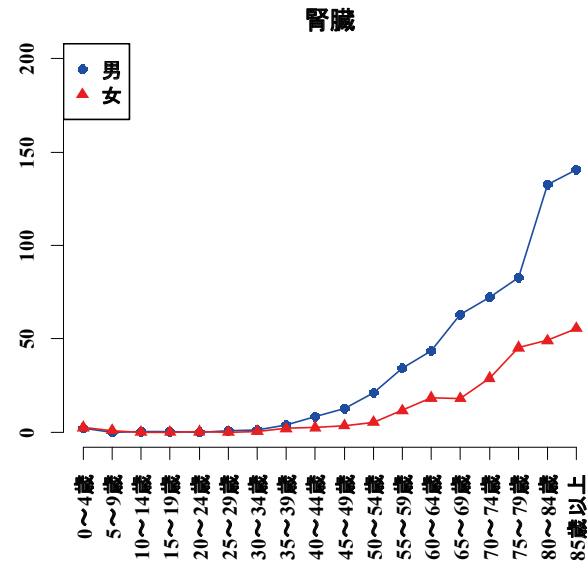
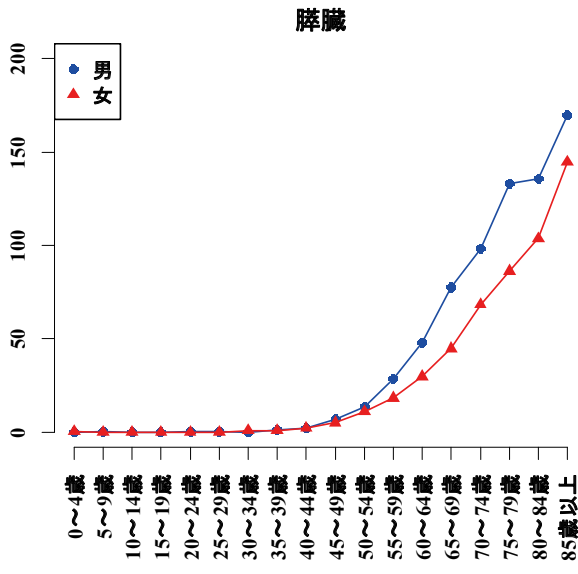
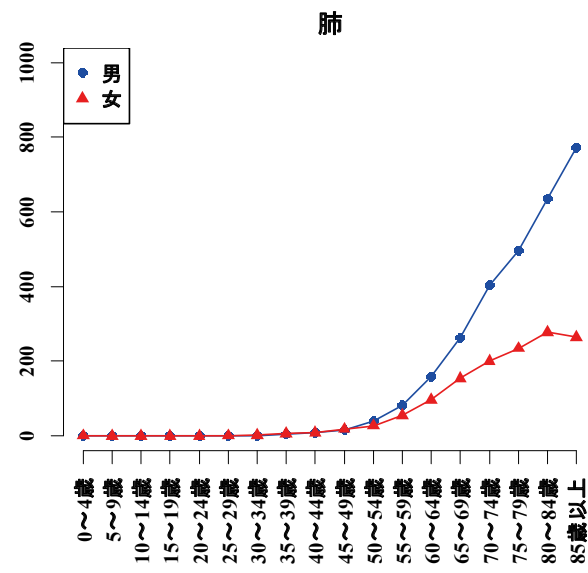
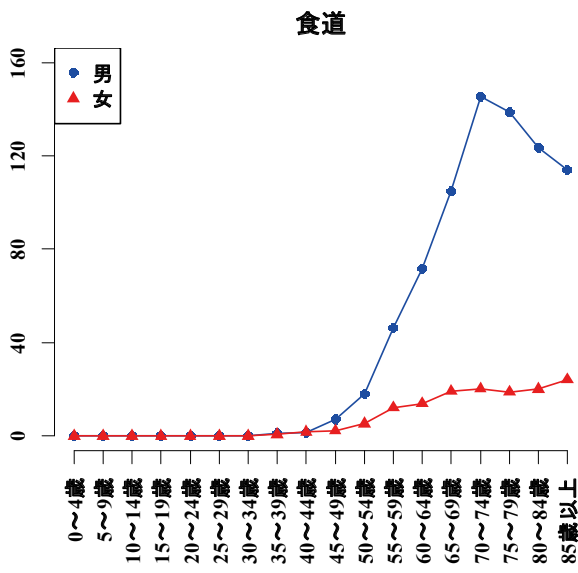
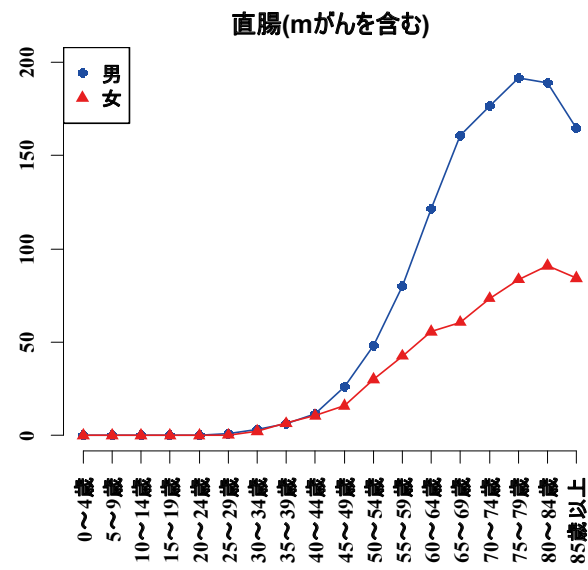
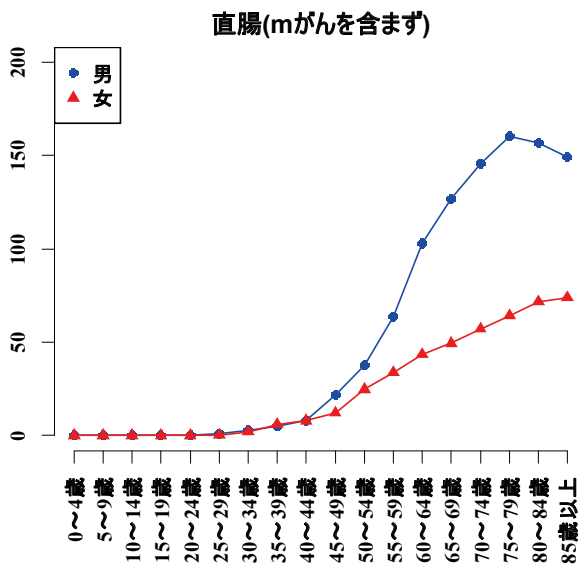
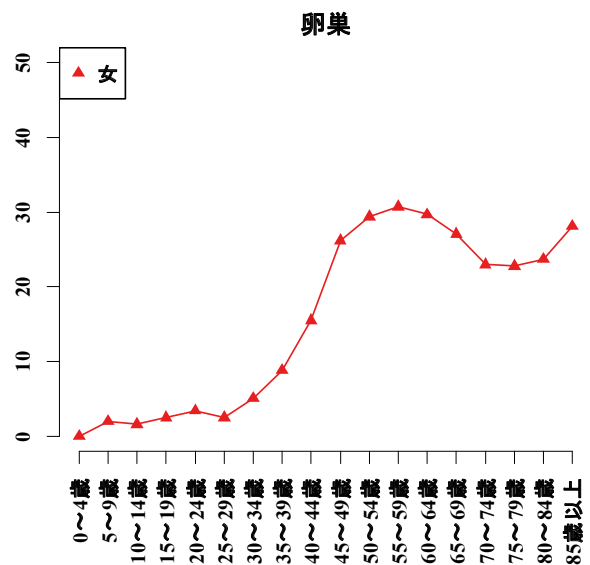
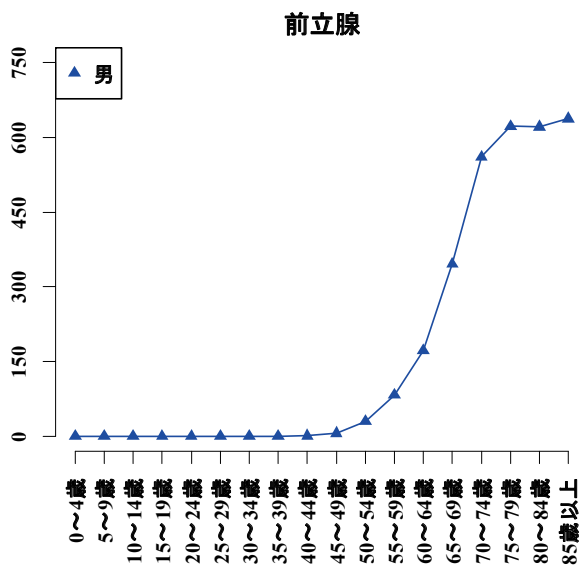
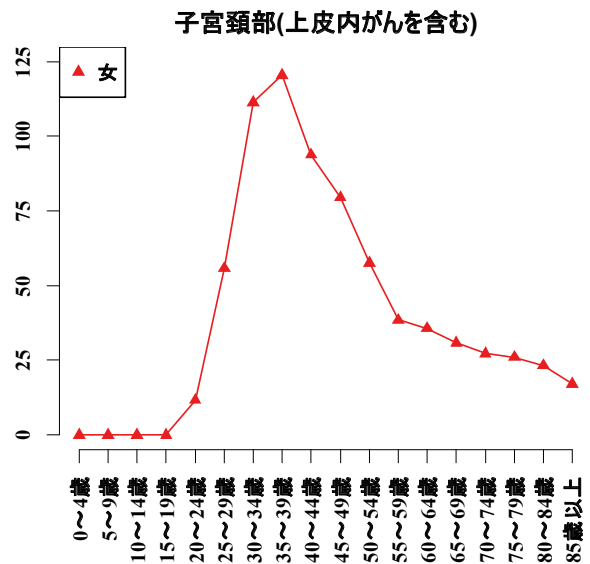
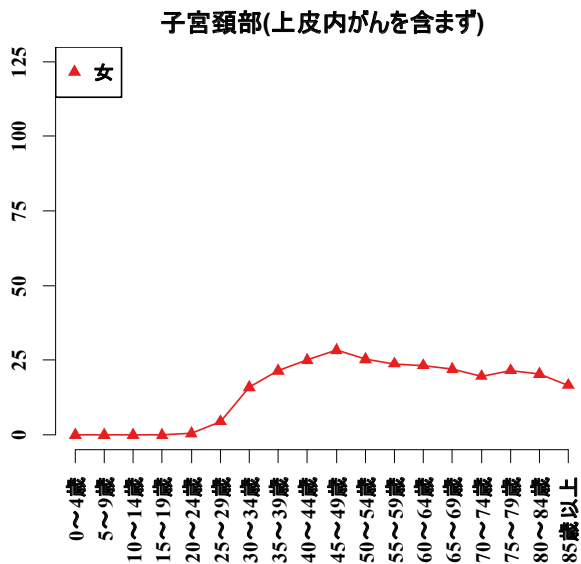
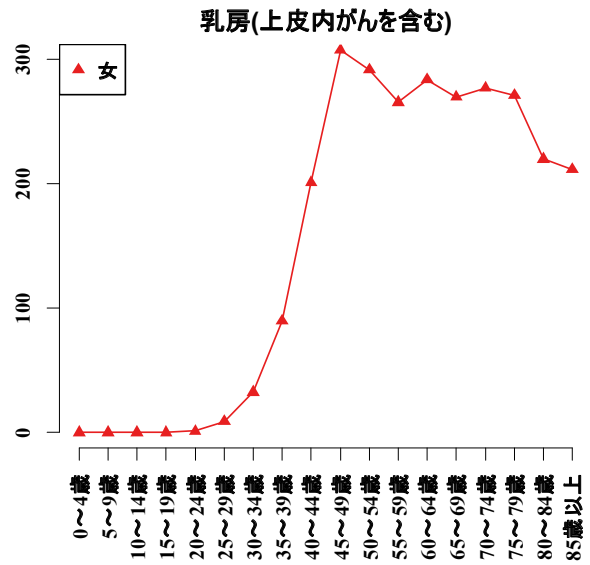
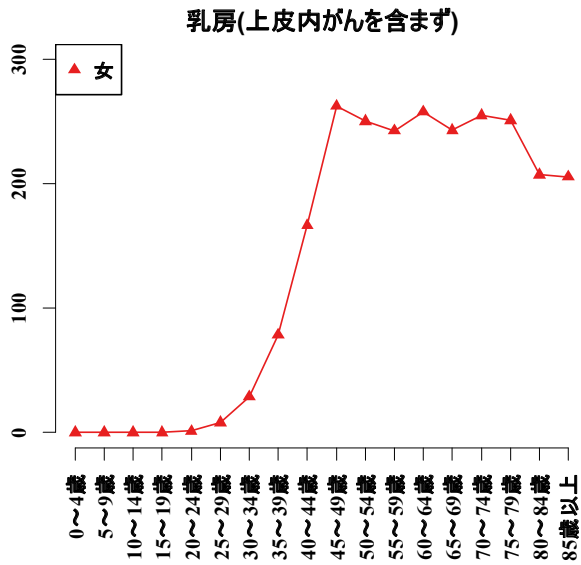


図 2.2.7 部位別年齢階級別罹患率（2015 年）：人口 10 万対（続々）

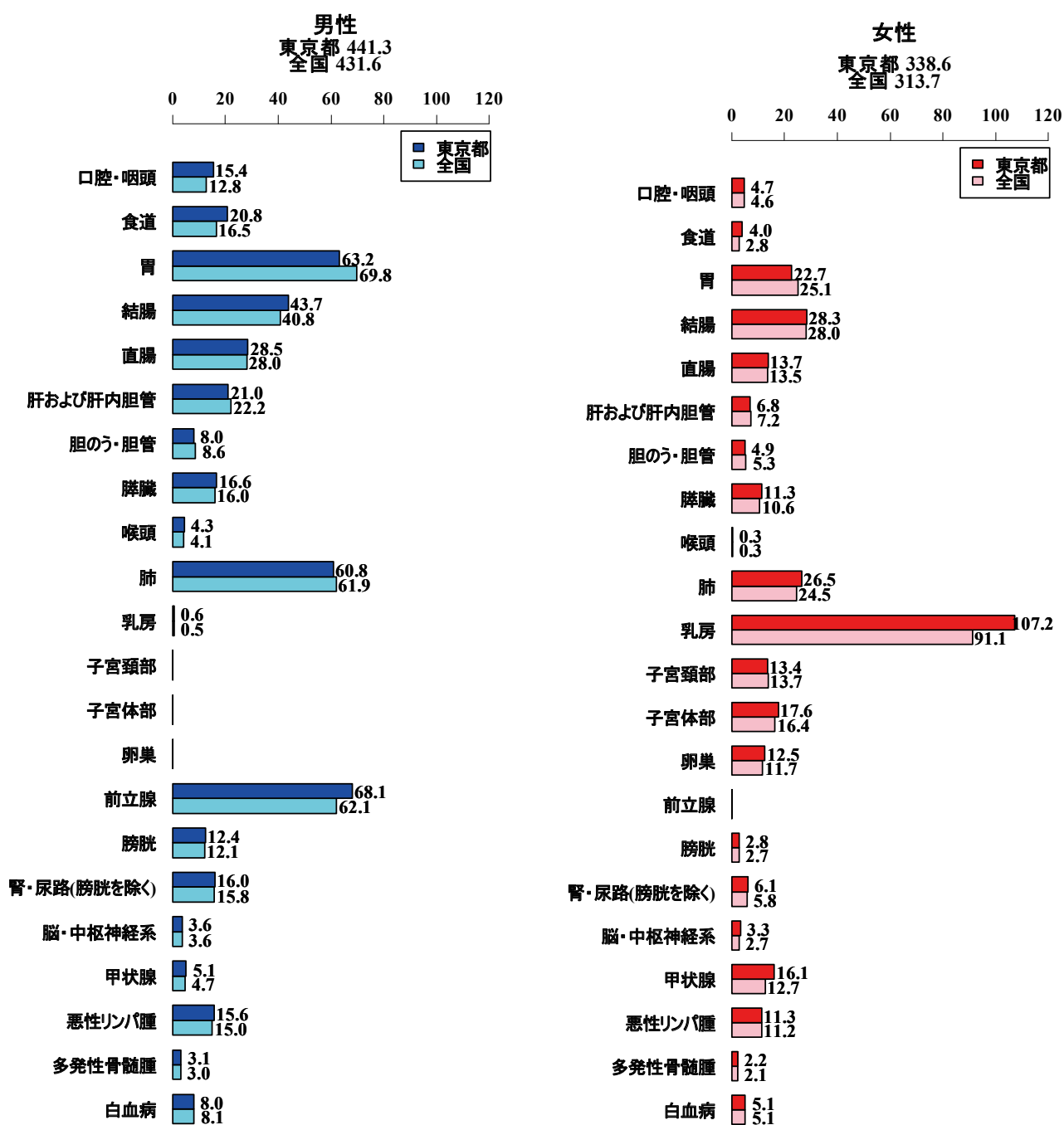


(3) 年齢調整罹患率 (表 3.2.1A)

東京都の年齢調整罹患率(上皮内がんを除く、昭和 60 年日本人口モデルに基づく)は、人口 10 万人当たり、男性 441.3、女性 338.6 である。全国推計値は、男性 431.6、女性 313.7 であるので、いずれも東京都の方が高い。

部位別では、男女ともに全国と比しておおむね同様の傾向を示しているが、男性は胃が低く、女性は乳房が顕著に高い特徴がある。

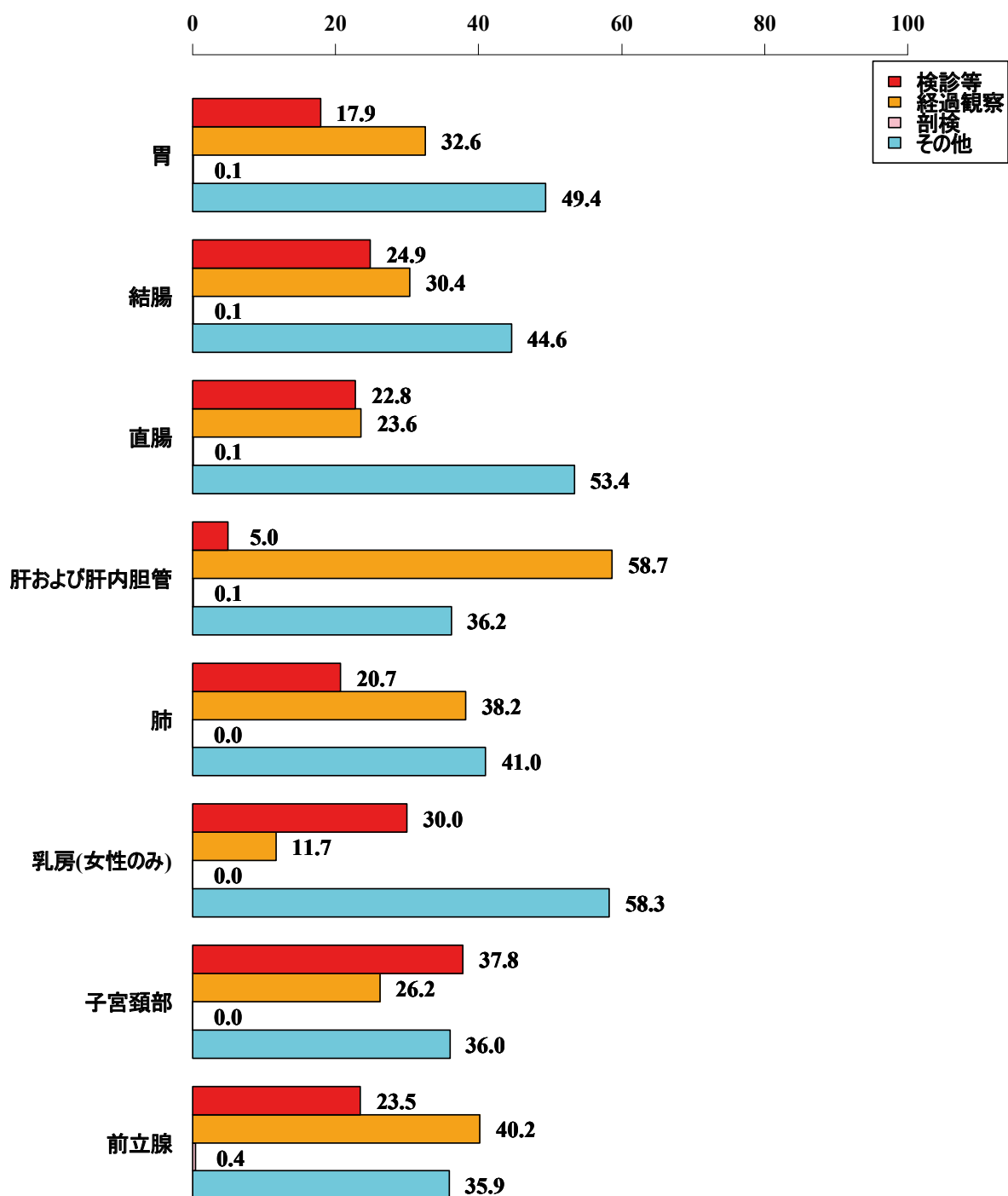
図 2.2.8 部位別がん年齢調整罹患率(2015 年):人口 10 万対(全国推計値との比較)



(4) 発見経緯 (表 3.2.4A/B)

検診等(がん検診、健康診断、人間ドック等)が発見経緯になる部位は、女性で罹患の多い子宮頸部、乳房における割合が高い。また、肝および肝内胆管で経過観察の割合が高い。

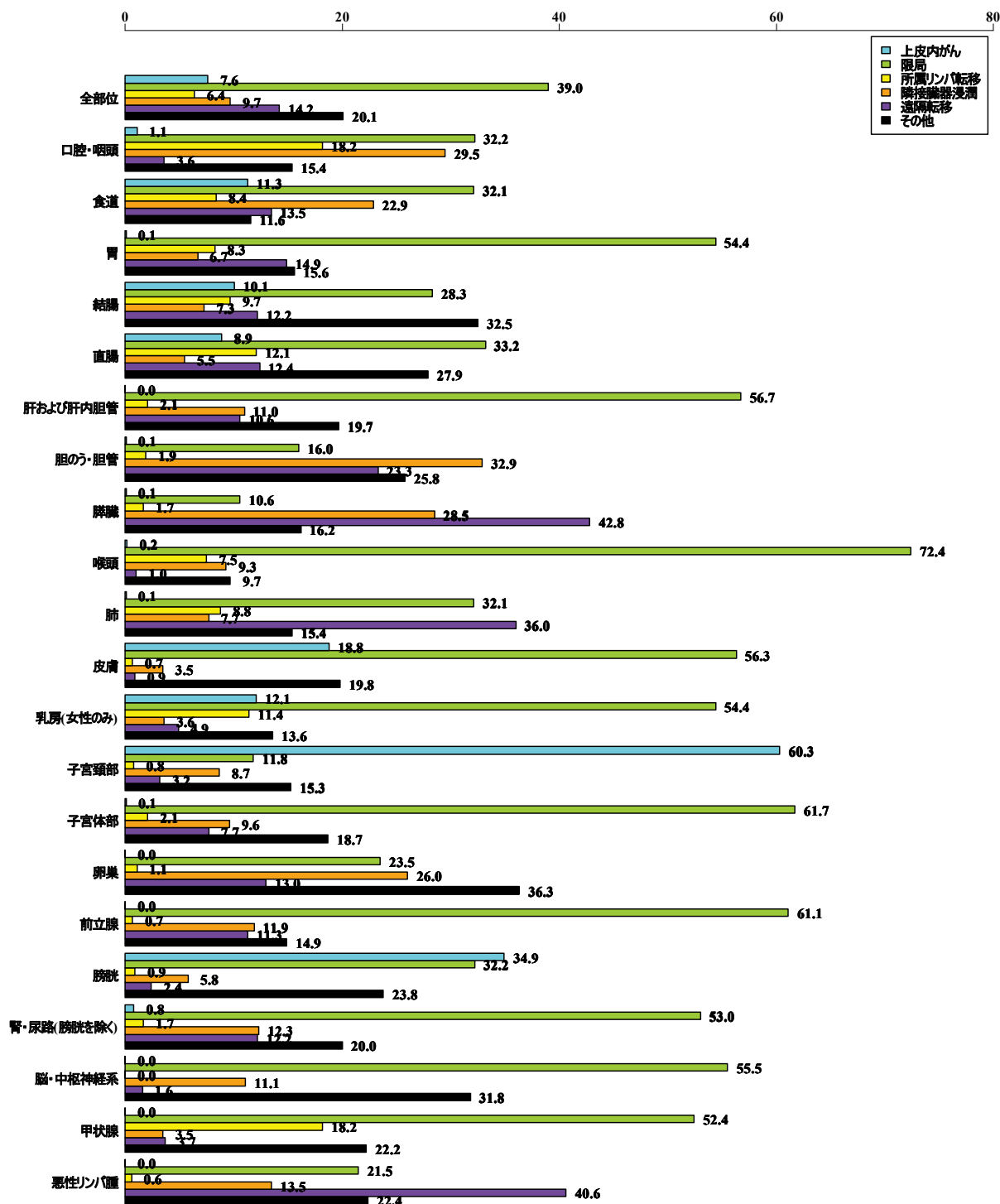
図 2.2.9 部位別発見経緯割合 (%) (2015 年) (DCO 症例を除く)



(5) 病期 (表 3.2.5A/B)

中枢神経、甲状腺、悪性リンパ腫以外で、所属リンパ節転移以上の進行状態で診断される割合の高い部位は、膵臓、胆のう・胆管、卵巣、肺であるが、膵臓と肺は遠隔転移の割合が高く、卵巣や胆のう・胆管は、隣接臓器浸潤が高い。

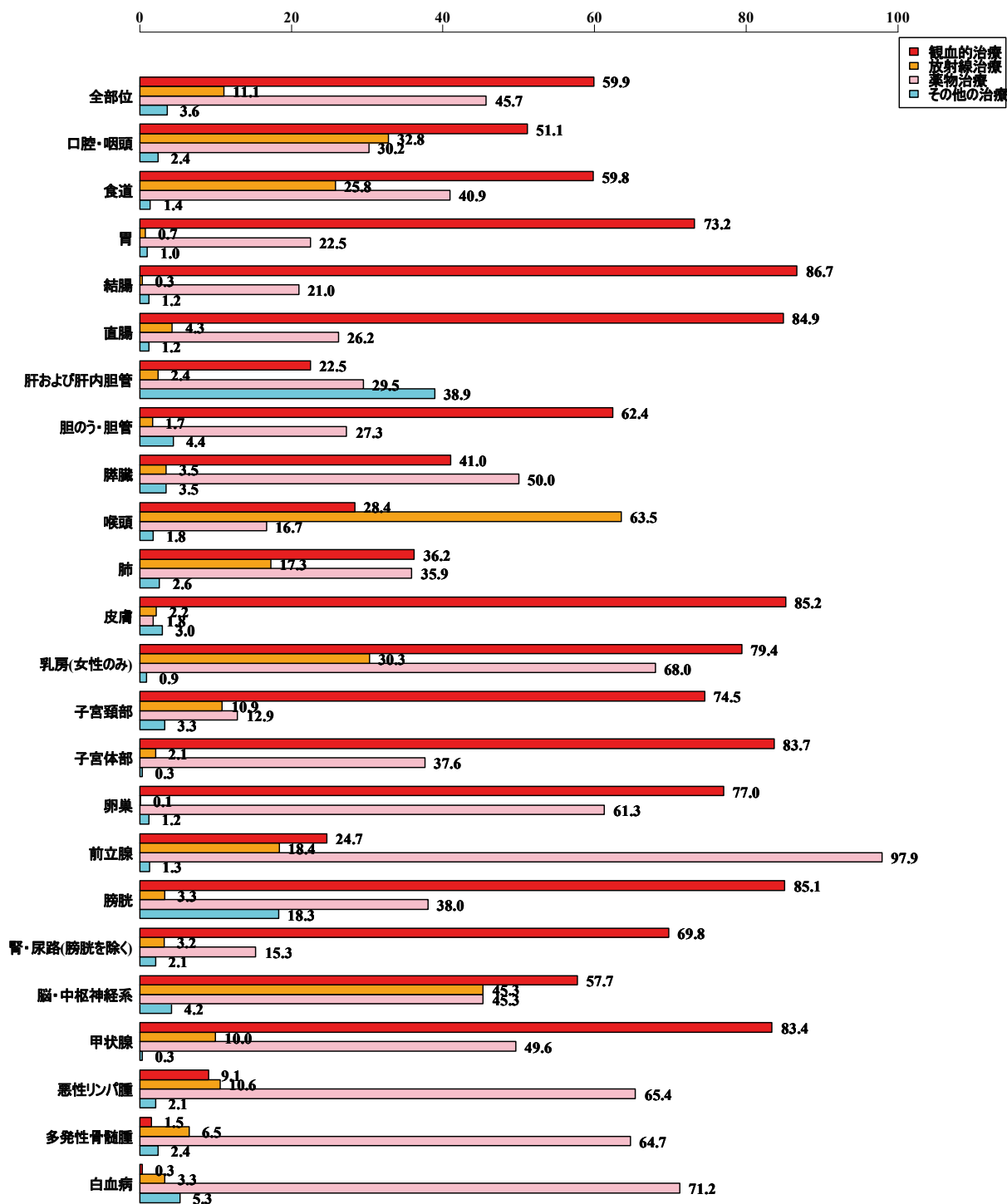
図 2.2.10 部位別発見時病期割合 (%) (2015 年) (DCO 症例を除く)



(6) 初回治療内容 (表 3.2.6A/B)

造血器腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病）以外で薬物治療の割合が高いのは、前立腺、乳房、卵巣、膀胱、食道である。また、放射線治療の割合が高いのは、喉頭、脳・中枢神経系、口腔・咽頭、食道、乳房である。

図 2.2.11 初回治療内容 (%) (2015 年) (DCO 症例を除く)



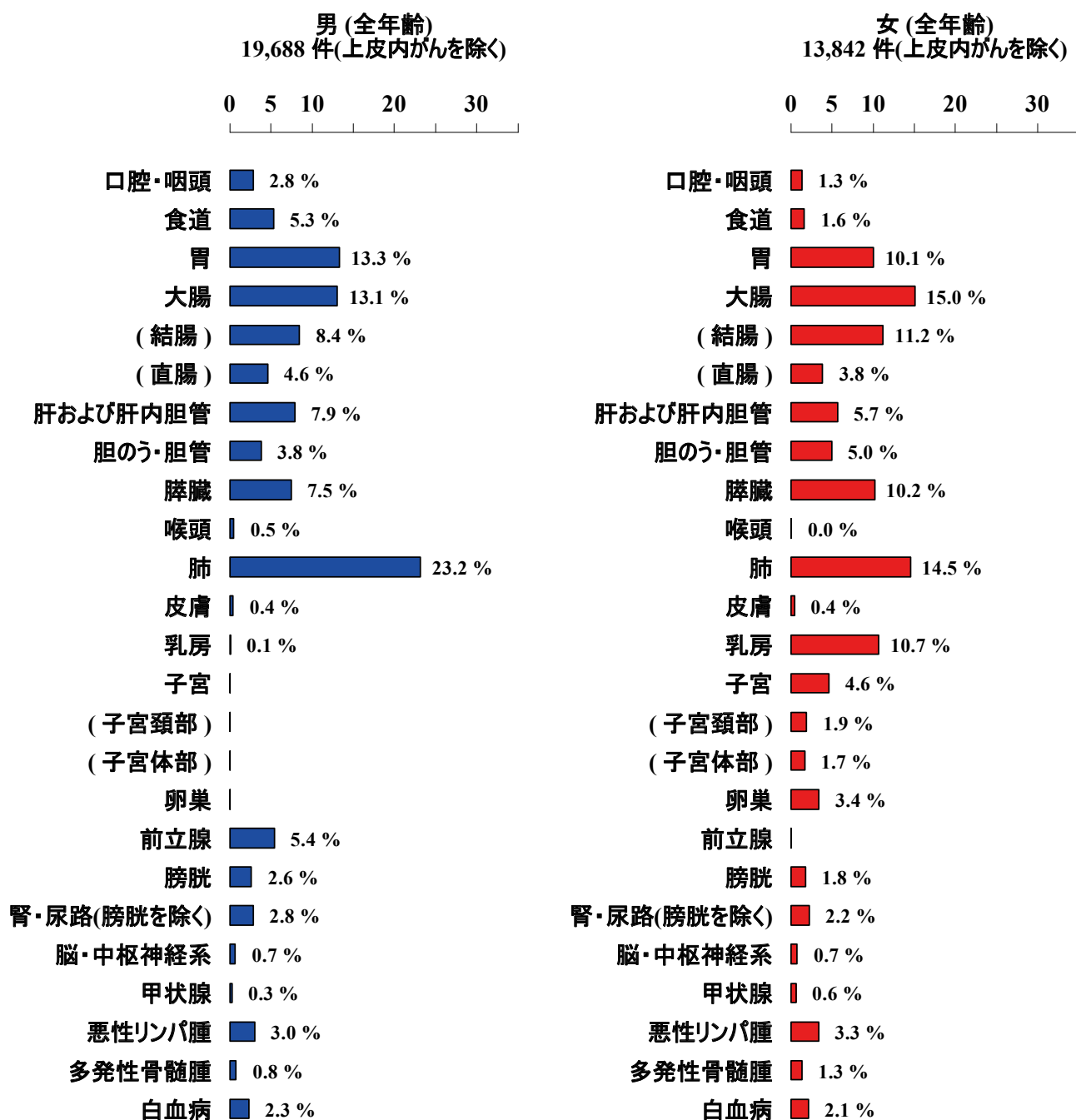
4. がん死亡の概要

(1) 部位別・性別がん死亡数 (表 3.2.9)

東京都において、2015 年にがんによって死亡した者の数は、男性 19,668 名、女性 13,842 名、男女計 33,530 名である。

がん死亡数を部位別に見た場合、男性は、肺、胃、大腸、肝および肝内胆管の順に多く、女性は、大腸、肺、乳房、胃の順に多い。

図 2.2.12 部位別・性別がん死亡件数・割合 (2015 年) (年齢不詳を含む)



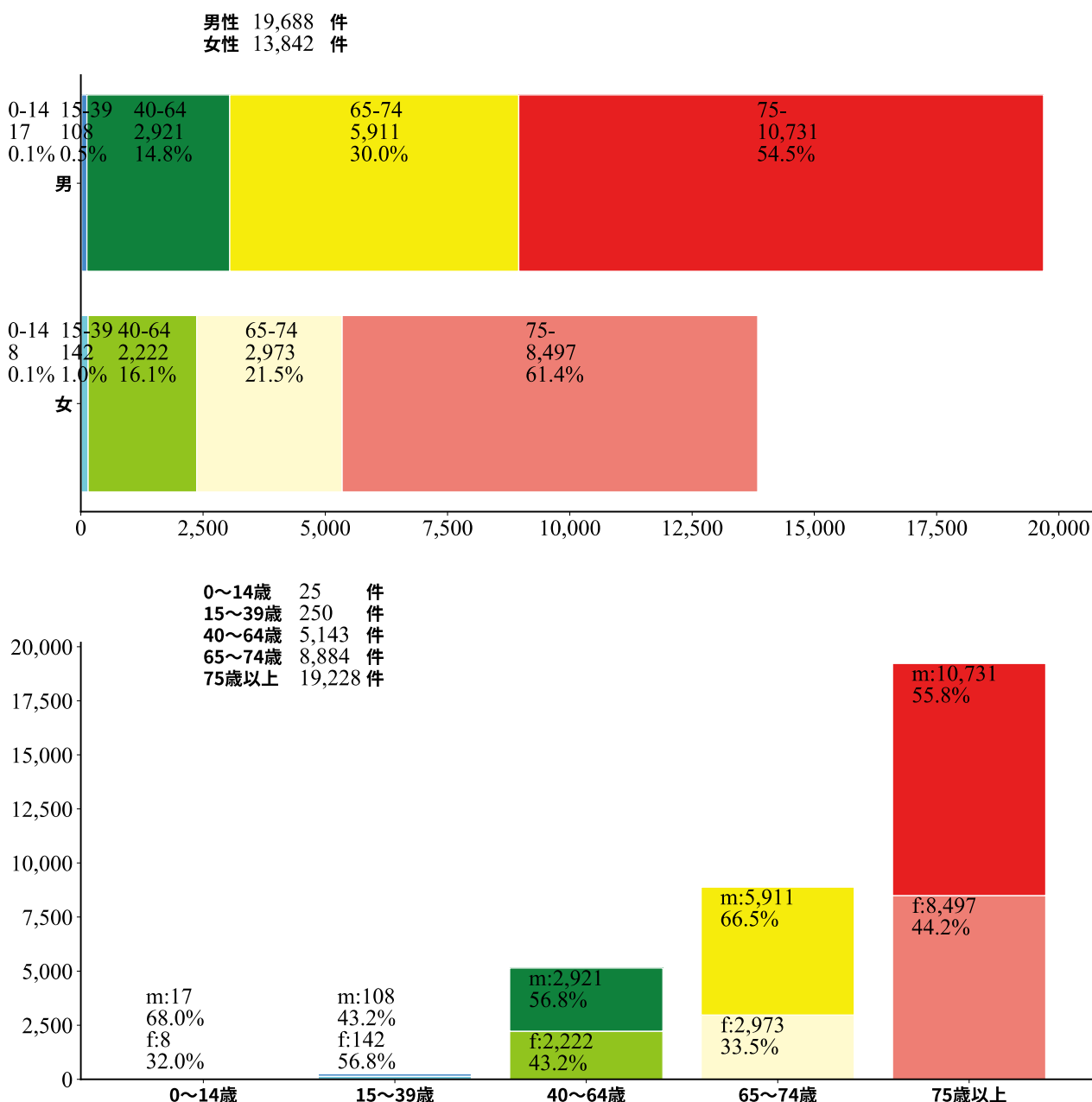
(2) 年齢別がん死亡 (表 3.2.10/11)

2015 年がん死亡の年齢別内訳を見ると、65 歳以上での死亡が男性 84.5%、女性 82.9%と、ともに 8 割以上を占めている。一方、40~64 歳は、男性で 14.8%、女性は 16.1%を占める。

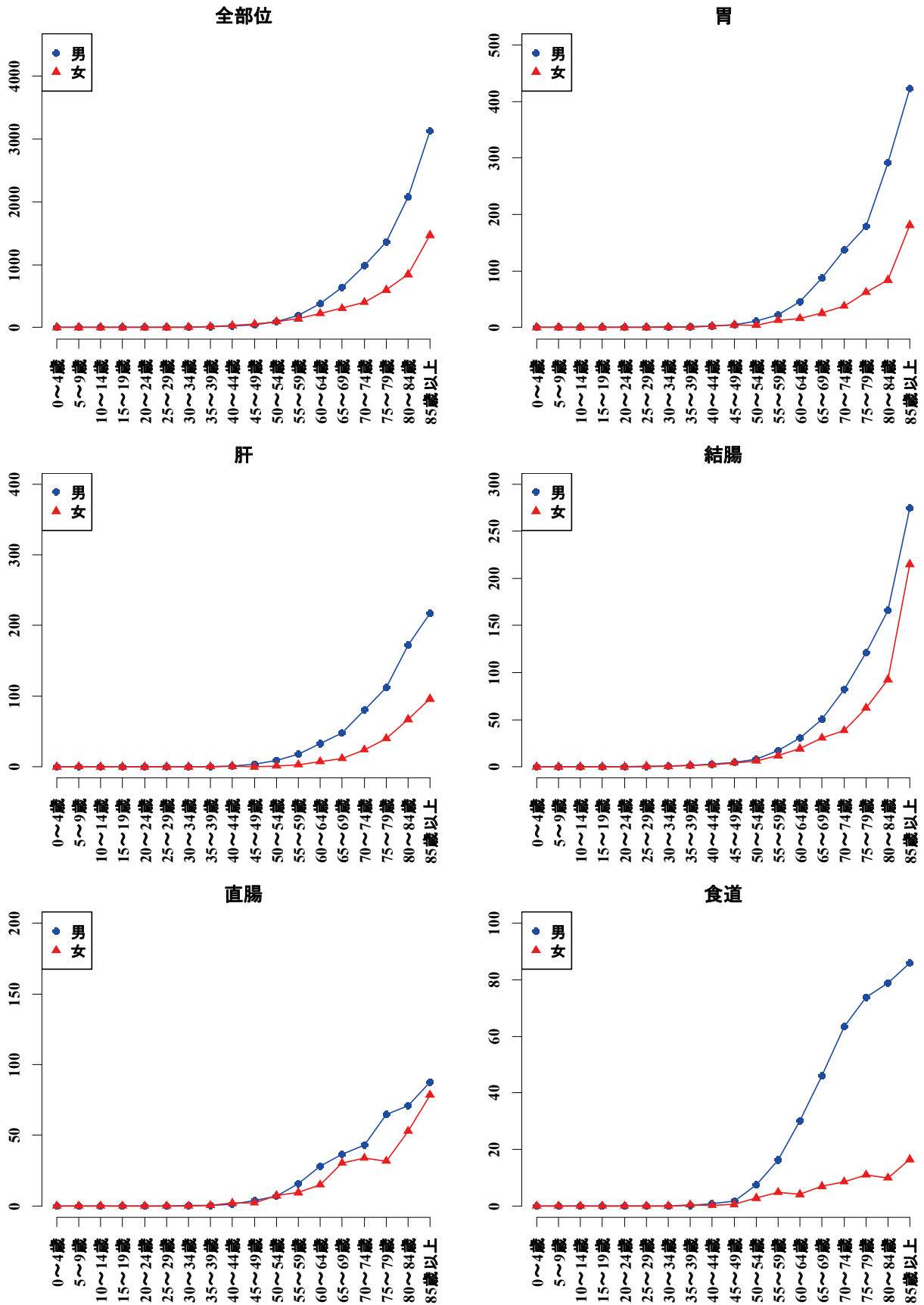
がん死亡数は、男性は対女性比で 42.2% (5,846 名) 多い。

年齢階級別死亡率(図 2.2.14)を見ると、男女とも年齢の上昇とともに増加するが、50 歳を過ぎる頃から更に上昇する傾向にあり、中でも女性の場合、乳房・子宮は、30 歳代から死亡率が上昇する。

図 2.2.13 がん死亡年齢群別内訳 (2015 年) (年齢不詳を除く)



☒ 2.2.14 部位別年齢階級別死亡率（2015年）：人口10万対



(3)年齢調整死亡率（表 3.2.9）

東京都の年齢調整死亡率（昭和 60 年日本人口モデル）は、人口 10 万人当たり、男性 166.0、女性 88.3 である。全国推計値は、男性 165.3、女性 87.7 である。

部位別では、男女ともに全国と比して概ね同様の傾向を示している。

図 2.2.15 部位別年齢調整死亡率（2015 年）：人口 10 万対（全国推計値との比較）

